

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	東京医療福祉専門学校
設置者名	学校法人 常陽学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
医療専門課程	はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧科（3年制）	夜・通信	10単位	10単位	
	はり、きゅう科（3年制）	夜・通信	10単位	10単位	
	柔道整復科（3年制）	夜・通信	10単位	10単位	
適格専攻科	教員養成科（2年制）	夜・通信	9単位	7単位	
備考					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにて授業科目一覧を公開。
 授業科目一覧の中で、教員の実務経験に関するチェック欄あり。
 （掲載：<https://www.tokyoiryoufukushi.ac.jp/introduction/disclosure/>）

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京医療福祉専門学校
設置者名	学校法人 常陽学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

東京医療学院大学のホームページにて公表 (掲載： https://www.u-ths.ac.jp/about/disclosure)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	公益法人 シニアアドバイザー	2025.6.4～ ※	教育
非常勤	法律事務所 所長	2025.6.4～ ※	法律・規則等
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京医療福祉専門学校
設置者名	学校法人 常陽学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。																	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 【作成について】 毎年度、各学科の教員間で検討のうえ、各授業を担当する教員が授業計画(シラバス)を作成する。なお上記の検討にあたっては、学生に実施している授業評価アンケートや科目担当教員からの意見なども検証し、これを加味したものとなっている。 「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設認定規則」、「柔道整復師学校養成施設認定規則」及び「あん摩マッサージ指圧はりきゅう教員養成機関指定基準」に基づき授業計画(シラバス)が作成される。 作成に際し、授業計画(シラバス)の記載形式は学内で以下の通り統一し、学生及び入学希望者に公表している。 <table border="0"> <tr> <td>①授業科目名</td><td>⑨授業時間数</td></tr> <tr> <td>②分 野</td><td>⑩単位数</td></tr> <tr> <td>③授業形態</td><td>⑪目標(一般目標・行動目標・到達目標)</td></tr> <tr> <td>④学年・組</td><td>⑫講義概要</td></tr> <tr> <td>⑤学 期</td><td>⑬授業計画(各回の授業プラン)</td></tr> <tr> <td>⑥学 科</td><td>⑭使用テキスト</td></tr> <tr> <td>⑦講師名</td><td>⑮成績評価方法</td></tr> <tr> <td>⑧授業コマ数</td><td>⑯授業実施上の留意点と教員紹介</td></tr> </table> 【時期について】 翌年度の授業計画(シラバス)は12月から2月までに担当となる教員が作成し、3月の学内会議で承認されることで正式決定する。決定された授業計画(シラバス)は閲覧可能にする。		①授業科目名	⑨授業時間数	②分 野	⑩単位数	③授業形態	⑪目標(一般目標・行動目標・到達目標)	④学年・組	⑫講義概要	⑤学 期	⑬授業計画(各回の授業プラン)	⑥学 科	⑭使用テキスト	⑦講師名	⑮成績評価方法	⑧授業コマ数	⑯授業実施上の留意点と教員紹介
①授業科目名	⑨授業時間数																
②分 野	⑩単位数																
③授業形態	⑪目標(一般目標・行動目標・到達目標)																
④学年・組	⑫講義概要																
⑤学 期	⑬授業計画(各回の授業プラン)																
⑥学 科	⑭使用テキスト																
⑦講師名	⑮成績評価方法																
⑧授業コマ数	⑯授業実施上の留意点と教員紹介																
授業計画書の公表方法	シラバスを学校の事務室に備え、広く一般に公表している。																
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。																	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

成績評価・管理、卒業認定に係る細則及び学生生活の手引きに、学内の成績評価、履修について記載し学生に対し周知を行っている。各学科で定める授業科目の試験（期末試験・実技試験等）より成績評価を行っている。

【参考】「成績評価・管理、卒業認定に係る細則」より引用

2 単位認定

(1) 単位認定および評価通知

個々の科目の単位は、次項に示す試験に合格と判定された者に与える。

- ① 学業成績簿の記載については、試験の結果に応じて、優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（60点未満）とする。ただし、再試験・追試験の受験で合格した者については、試験の素点に関わらず可となる。

3 成績評価・管理

(1) 試験の詳細

本校の試験は、期末試験、臨時試験および卒業認定試験（筆記）、卒業認定実技試験がある。試験は、単位認定を行うための重要な資料となる。

① 試験方法および評価方法

試験の形式は筆記試験および実技試験などによって行う。各科目とも100点満点法を用い60点以上を合格とし、60点未満を不合格とする。不合格となった者は、次項に示す再試験を受けなければならない。

② 受験資格

科目の授業時間数の3分の2以上出席していない者は、その科目を受験できない。実習・実技については5分の4以上の出席を必要とする。試験終了後に授業があり、これを欠席し必要な授業時間数を確保できなかった場合、その試験は無効となり単位認定が得られなくなる。

～一部省略～

(2) 再試験・追試験

前項に示す試験に不合格となった者に対しては再試験、病気その他のやむを得ない理由により試験を受験できなかった者に対しては追試験を実施する。

① 再試験・追試験の試験方法および評価方法

試験の形式は筆記試験および実技試験などによって行う。各科目とも100点満点法を用い60点以上を合格とし、60点未満を不合格とする。

なお再試験、追試験は点数が60点以上あっても、60点を学業成績簿上の試験結果とする。不合格となった者は、再々試験を受けなければならない。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価・管理、卒業認定に係る細則及び学生生活の手引きに、単位の認定および成績の評価について記載し学生に対し周知を行っている。学業成績は、授業科目ごとに実施する試験（期末試験・実技試験等）によって評価される。 当校では、各授業の評価を、試験の結果に応じて、優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（60点未満）と設定している。各科目とも100点満点法を用い60点以上を合格とし、60点未満を不合格とする。不合格科目については再試験等を実施する。各年次に履修が定められた全科目に合格し、単位を取得しなければ進級できない。 当校では、各生徒の履修した全科目の平均点数を算出し、学業成績を管理するほか、特待生制度対象者の選定、卒業時における学業優秀者の表彰候補者選出などにも活用している。 平均点数は、各年次に履修した全科目の素点を合計し、履修科目数で除することで算出している。 また、成績評価方法については、学校ホームページ上で公表するとともに新入生オリエンテーションにおいて入学学生等に周知を行っている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.tokyoiryoufukushi.ac.jp/introduction/disclosure/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧科及びはり、きゅう科においては、①はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧の対象となる人々を人間として尊重することのできる人材の育成、②はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧に関する基礎的知識・技術の習得を教育目標として掲げている。

柔道整復科においては、①柔道整復の対象となる人々を人間として尊重することのできる人材の育成、②柔道整復に関する基礎的知識・技術の習得を教育目標として掲げている。

教員養成科においては、臨床専攻課程（前期課程）では、はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧に関して、豊かな人間性と高度な知識、技術を保持し有効、有用な施療のできる人材の養成し、教員養成課程（後期課程）では、はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧を自然科学の観点から論理的、客観的に考究し、時代に適応する学問体系として創造、発展させることのできる教育者を育成します。

本教育目標は、成績評価・管理、卒業認定に係る細則及び学生生活の手引きに記載し、学生に対し周知を行っている。

また、学則第 21 条（卒業・修了の認定）において、下記のように定めている。

1 校長は、本校所定の教育課程に定めるところにより、各学年ごとに修了すべき科目について試験を行い、合格者に対して当該学科目の修了を認定する。

2 本校所定の課程を修了した者には、卒業証書を授与する。

卒業認定に関する方針は、学則及び学生生活の手引きに記載し、学生に対して周知を行う。また、卒業認定に関する方針については、学校ホームページ上で公表するとともに新入生オリエンテーションにおいて入学生等に周知を行っている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.tokyoiryoufukushi.ac.jp/introduction/disclosure/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	東京医療福祉専門学校
設置者名	学校法人 常陽学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	HPにて公開している。 (掲載: https://www.u-ths.ac.jp/about/disclosure)
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告(書)	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士					
医療関係		医療専門課程		はり、きゅう、あん 摩マッサージ指圧科		○							
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数		開設している授業の種類									
				講義		演習		実習		実験		実技	
3 年	昼	100 単位		61 単位		8 単位		31 単位					
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数			
138 人		123 人		0 人		8 人		16 人		24 人			

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) 様式2号の3に記載した内容を参照	
成績評価の基準・方法	
(概要) 様式2号の3に記載した内容を参照	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 様式2号の3に記載した内容を参照	
学修支援等	

(概要) 入学者の学力低下傾向があることから、成績が奮わない学生への支援体制として、試験等の得点のみならず、授業の出欠席・聴講状況も含めて情報を収集し、担任教員及び各学科長による面談を実施している。期末試験後には入念な解説や再試験、長期休暇等を活用した補講授業、国家試験を控える学生に対してはチューター制度を導入し個別指導を実施する等、教員が一丸となって対応し、不得意科目の克服と全体の成績向上につながるよう努めている。 当校では課外活動の拡充も図っており、様々な部活動・ゼミが開講されている。曜日毎に異なる部活動・ゼミが開講されているため、意欲ある学生は自身が興味のある分野の部活動・ゼミに参加することが可能である。
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26 人 (100%)	1 人 (3.8%)	24 人 (92.3%)	1 人 (3.8%)
(主な就職、業界等) 鍼灸院・整骨院（㈱メディカルアーツ、フレアス、㈱リーフ）			
(就職指導内容) 就職相談会、企業セミナーの実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) 専門士 はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師の国家試験の受験資格・国家資格の取得			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
108 人	5 人	4.6%
(中途退学の主な理由) 体調不良、学力不足、一身上の都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本校では、長期欠席の主な要因として健康面・経済面・学習面等があると考え、未然防止に向けて学科長・学級担任が生徒本人や保護者も交えた個別面談・個別指導を実施しています。成績不良者に対しては、試験結果に加え、出欠状況や授業態度も含めた情報をもとに継続的な指導を行っています。また、試験後の解説や再試験、長期休暇中の補講授業等を通じて、教員が連携しながら学力向上と不得意科目の克服に努めています。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療関係		医療専門課程	はり、きゅう科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	94 単位	54 単位	13 単位	27 単位			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90 人		58 人	0 人	6 人	17 人	23 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 様式 2 号の 3 に記載した内容を参照	
成績評価の基準・方法	
（概要） 様式 2 号の 3 に記載した内容を参照	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 様式 2 号の 3 に記載した内容を参照	
学修支援等	
（概要） 入学者の学力低下傾向があることから、成績が奮わない学生への支援体制として、試験等の得点のみならず、授業の出欠席・聴講状況も含めて情報を収集し、担任教員及び各学科長による面談を実施している。期末試験後には入念な解説や再試験、長期休暇等を活用した補講授業、国家試験を控える学生に対してはチューター制度を導入し個別指導を実施する等、教員が一丸となって対応し、不得意科目の克服と全体の成績向上につながるよう努めている。 当校では課外活動の拡充も図っており、様々な部活動・ゼミが開講されている。曜日毎に異なる部活動・ゼミが開講されているため、意欲ある学生は自身が興味のある分野の部活動・ゼミに参加することが可能である。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6 人 (100%)	0 人 (0%)	4 人 (66.7%)	2 人 (33.3%)
（主な就職、業界等） 鍼灸院・整骨院（トップソルブ、icute、サクラサク鍼灸カイロプラクティック）			
（就職指導内容） 就職相談会、企業セミナーの実施			

(主な学修成果（資格・検定等）) 専門士 はり師、きゅう師の国家試験の受験資格・国家資格の取得
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
43 人	5 人	11.6%
(中途退学の主な理由) 学力不足、学費未納、一身上の都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本校では、長期欠席の主な要因として健康面・経済面・学習面等があると考え、未然防止に向けて学科長・学級担任が生徒本人や保護者も交えた個別面談・個別指導を実施しています。成績不良者に対しては、試験結果に加え、出欠状況や授業態度も含めた情報をもとに継続的な指導を行っています。また、試験後の解説や再試験、長期休暇中の補講授業等を通じて、教員が連携しながら学力向上と不得意科目の克服に努めています。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療関係		医療専門課程	柔道整復科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	99 単位	74 単位		4 単位		21 単位	
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90 人		31 人	1 人	6 人	20 人	26 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 様式 2 号の 3 に記載した内容を参照	
成績評価の基準・方法	
（概要） 様式 2 号の 3 に記載した内容を参照	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 様式 2 号の 3 に記載した内容を参照	
学修支援等	
（概要） 入学者の学力低下傾向があることから、成績が奮わない学生への支援体制として、試験等の得点のみならず、授業の出欠席・聴講状況も含めて情報を収集し、担任教員及び各学科長による面談を実施している。期末試験後には入念な解説や再試験、長期休暇等を活用した補講授業、国家試験を控える学生に対してはチューター制度を導入し個別指導を実施する等、教員が一丸となって対応し、不得意科目の克服と全体の成績向上につながるよう努めている。 当校では課外活動の拡充も図っており、様々な部活動・ゼミが開講されている。曜日毎に異なる部活動・ゼミが開講されているため、意欲ある学生は自身が興味のある分野の部活動・ゼミに参加することが可能である。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6 人 (100%)	0 人 (0%)	5 人 (83.3%)	1 人 (16.7%)
（主な就職、業界等） 鍼灸院・整骨院（㈱あおば、株式会社ケイズグループ、株式会社 NGS）			
（就職指導内容） 就職相談会、企業セミナーの実施			

(主な学修成果（資格・検定等）) 専門士 柔道整復師の国家試験の受験資格・国家資格の取得
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	3 人	11.1%
(中途退学の主な理由) 学力不足、健康上の理由、学習意欲の低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本校では、長期欠席の主な要因として健康面・経済面・学習面等があると考え、未然防止に向けて学科長・学級担任が生徒本人や保護者も交えた個別面談・個別指導を実施しています。成績不良者に対しては、試験結果に加え、出欠状況や授業態度も含めた情報をもとに継続的な指導を行っています。また、試験後の解説や再試験、長期休暇中の補講授業等を通じて、教員が連携しながら学力向上と不得意科目の克服に努めています。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療関係		適格専攻科	教員養成科（あ）				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	62 単位	6 単位	24 単位	32 単位			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50 の内数人		0 人	0 人	3 人	21 人	24 人		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療関係		適格専攻科	教員養成科（はき）				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	62 単位	6 単位	24 単位	32 単位			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50 の内数人		0 人	0 人	3 人	21 人	24 人		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療関係		適格専攻科	教員養成科（あはき）				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	69 単位	6 単位	26 単位	37 単位			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50 の内数人		0 人	0 人	3 人	21 人	24 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 様式 2 号の 3 に記載した内容を参照	
成績評価の基準・方法	
（概要） 様式 2 号の 3 に記載した内容を参照	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 様式 2 号の 3 に記載した内容を参照	
学修支援等	

(概要) 教員資格を取得するために、教育実習や教育方法など、教育に関する学びを充実させています。 また、将来担当する専門科目や専門基礎科目を幅広く学び、臨床実習において、実技指導教育も行っています。 さらに、1年間の卒業研究を通して、教員として必要な応用力を身につけ、一人ひとりの学生の能力に応じた指導を行っています。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
はり、き ゆう、あ ん摩マッ サージ指 圧科	300,000 円	1,500,000 円	100,000 円	
はり、き ゆう科	300,000 円	1,100,000 円	100,000 円	
柔道整復 科	300,000 円	1,100,000 円	100,000 円	
教員養成 科	300,000 円	1,200,000 円	円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校HP公開している (掲載： https://www.tokyoiryofukushi.ac.jp/introduction/disclosure/)		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制） 学校関係者として、関係企業、卒業生などを含む学校関係者評価委員会を組織し、それぞれの知見を活かした教育内容・学校運営等について評価を行い、学校長に報告します。 評価内容は当校の運営協議会、教務委員会などで報告され、次年度以降の改善に取り組んでいます。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
施術業企業 代表	2024. 4. 1～2026. 3. 31	実習施設関係者
施術所 院長	2024. 4. 1～2026. 3. 31	卒業生
専門学校 教員	2024. 4. 1～2026. 3. 31	学識経験者
施術業企業 代表	2024. 4. 1～2026. 3. 31	本校所在地域関係者
施術業企業 代表	2024. 4. 1～2026. 3. 31	企業
第三者評価結果の公表方法		

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 第三者評価は未実施であります。本校は教員養成科が適格専攻科となりましたので、令和12年までの実施を予定しています。 上記表中の第三者評価に係る各項目は、昨年度に実施した学校関係者評価に関する情報を記載している。
(備考)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.tokyoiryoufukushi.ac.jp/

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H113310200035
学校名（〇〇大学 等）	東京医療福祉専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 常陽学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		16 人（－ 人）	15 人（－人）	16 人（－人）
内 訳	第Ⅰ区分	－ 人	－ 人	
	（うち多子世帯）	（－人）	（0人）	
	第Ⅱ区分	－ 人	－ 人	
	（うち多子世帯）	（－人）	（0人）	
	第Ⅲ区分	－ 人	－ 人	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0 人	0 人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	0 人	－ 人	
	区分外（多子世帯）	－ 人	－ 人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0 人（0人）
合計（年間）				16 人（－人）
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	- 人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	- 人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0 人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0 人	人	人
計	- 人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-人
3月以上の停学	0人
年間計	-人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	-人	人	人
GPA等が下位4分の1	-人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	-人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。